

[成果情報名]モモ「夢みずき」における高品質果実生産のための栽培管理方法

[要約]「夢みずき」は有袋栽培で外観の良い果実生産が可能となる。品種特性としていびつな果実が発生しやすいが、仕上げ摘果時に形状のよい果実を残すと発生を低く抑えられる。

[担当]山梨県果樹試験場・育種部・落葉果樹育種科・新谷勝広

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

「夢みずき」は平成 25 年に品種登録された山梨県のオリジナル品種で、大玉で食味が良いことから栽培者から期待されている品種である。しかし、無袋栽培が可能か、品種の特性として果形がわるい果実が生じやすいが、その発生を低く抑えられるか、など、不明な点もある。そこで、これらの点を明らかにし、高品質果実生産方法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 「夢みずき」は有袋栽培で、果面の荒れが少なく裂果のない外観の良い果実を生産できる（表 1）。
2. 一般的な有袋栽培の除袋適期から 3 日程度遅れても果実は十分に着色し、除袋適期の幅は広い（表 2）。
3. いびつな幼果の発生は年次により増減する。また、樹齢と発生率には明確な関係はない（表 3）。
4. 仕上げ摘果時に、形状がよく正常果と判断した幼果は、高い確率で正常な成熟果となる（表 4、図 1）。仕上げ摘果時に形状のよい幼果を残せば、成熟果の形状の揃いがよくなる。

[成果の活用上の留意点]

1. 予備摘果時には形状の見分けは困難であるが、それ以降、生育ステージが進むほど幼果の形状が見分けやすくなる。
2. 仕上げ摘果がやや遅くなっても果実肥大への影響は少ない。

[期待される効果]

1. 高品質な果実生産が可能となる。

[具体的データ]

表1 果実袋の有無および種類による果面状況

供試樹	試験区	着色 ^{z)}	果点 ^{y)}	裂果 (%)
原木	無袋	4.8	2.1	14.0
	二重袋	4.8	1.0	0.0
	KMP	4.6	1.3	0.0
複製樹	無袋	4.7	1.8	4.6
	二重袋	4.5	1.0	0.0
	KMP	4.5	1.1	0.0

^{z)}0 (無) ~5 (80%以上) ^{y)}0 (無) ~3 (多)
 無袋と二重袋は2014~2016年の平均値、KMPは2014年の値
 原木 (自根) : 樹齢13~15年生
 複製樹 (筑波5号台) : 樹齢6~8年生

表2 除袋時期の違いによる果面状況

袋種類	除袋時期	着色 ^{z)}	果点 ^{y)}
二重袋	慣行	4.8	1.0
	遅延	4.4	1.3
KMP	慣行	4.6	1.3
	遅延	4.5	1.3

^{z)}0 (無) ~5 (80%以上) ^{y)}0 (無) ~3 (多)
 二重袋は2014~2016年の平均、KMPは2014年の値。また、調査は原木で実施し、遅延は慣行の3日後に除袋した。

表3 仕上げ摘果前のいびつ果発生率 (%)

供試樹	調査年			3カ年平均
	2014	2015	2016	
原木	40.8	28.6	11.1	26.8
複製樹1	40.1	31.3	16.4	29.3
複製樹2	32.0	8.0	15.1	18.4

原木 (自根) : 樹齢13~15年生
 複製樹1 (筑波5号台) : 樹齢6~8年生
 複製樹2 (おはつもも) : 樹齢3~5年生



図1 正常果といびつ果

表4 仕上げ摘果時の果形と収穫時の果形の関係

供試樹	仕上げ摘果時の果形	収穫時の果形		
		正常	軽度いびつ	重度いびつ
原木	正常	96.3	3.7	0.0
	いびつ	66.9	33.1	0.0
複製樹	正常	67.4	32.6	0.0
	いびつ	21.4	52.4	26.2

数字は発生割合 (%) 2014~2016年の平均
 原木 (自根) : 樹齢13~15年生、複製樹 (筑波5号台) : 樹齢6~8年

[その他]

研究課題名 : 県育成オリジナル品種の栽培技術の確立

予算区分 : 県単 (重点化)

研究期間 : 2014~2016 年度

研究担当者 : 新谷勝広、太田佳宏、竹腰 優